

身延町総合計画策定町民ワークショップ開催報告書 ③



## 第3回開催概要

### 1. 開催概要

---

開催日時：2025年11月17日（月）15：00～

開催場所：中富総合会館

参加者数：35人（16人（町民）、19人（役場職員））

### 2. 第3回の位置づけ

---

テーマ：「目標イメージと基本的な施策を考える」

目的：設定された将来像と政策に対し、成果目標（ウェルビーイング指標）をイメージするとともに各分野においてどのような施策内容が考えられるかを検討する

実施内容

- 2.1 前回WSの振り返り
- 2.2 設定された将来像・政策の説明
- 2.3 分科会に分かれてグループワーク

### 3. グループワーク

---

- 3.1 グループ討議：設定された政策を基に各分野における目標（ウェルビーイング指標）を検討・決定する
- 3.2 グループ討議：決定された目標に対する施策を考える
- 3.3 グループ討議：全体で共有

## 4. 意見のまとめ（各班）

各班から出された指標と施策のイメージは以下のとおり。

### 4.1 1班【自然・環境・文化・伝統】

#### ■ 決定した指標

主な指標	ポイント
<b>暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる。</b>	前回ワークショップで挙げられた「安心して農業ができる（鳥獣被害の軽減）」「健康になれる」「移住者が増えて地域が活性化する」といったキーワードを中心に話し合い選定した。参加者からは、まず生活の基盤が安定していなければ「やすらぎ」は生まれないと意見があった。また、鳥獣被害への対策を進め、自然をしっかりと感じられる環境が整っていることが大切だと意見もあった。地域活動に参加する人が減るなかでも、地域のコミュニティを維持し、活気を取り戻していく必要があり、地域が元気になれば、移住者の増加にもつながるのではないかという期待も示された。これらの議論から、「やすらぎ」の根本には“自然を感じられる豊かな環境があること”が重要との結論に至り、この指標を選定となった。

#### ■ その他の検討された指標

暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
私は、同じ町内に住む人たちを信頼している
私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである。
暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる

■ 施策のイメージ

内容（事業アイデア）	
地域の魅力を上げ、移住者を増やすきっかけづくり	山梨百名山が同町には沢山あるので登山ツアーの実施
	レンタル農業・林業の交流体験
	気球から自分の地域を見たり、撮影したりして再確認する事業
	住宅用木材の伐採体験
	地域が培ってきた歴史、文化の再検証を行い地元愛を高める事業
	地域体験ツアー（伝統行事・祭り等）の実施
	自給自足のノウハウを地域の知恵（年寄り等）から教える体験の実施
	空き家情報の提供
地域活動の効率化を行い、より気軽に参加できる環境の構築	
ポイント	
<p>同町の良さは自然が身近にある良さがある。</p> <p>自然・農業・林業・地域イベントとの交流を行うことにより、町外の人にとっては、地域の魅力の発見となり、町内に人にとっては地域魅力の再確認になる。</p> <p>⇒町外町内人の同町に対する地域魅力が向上</p> <p>⇒関係人口の増加のきっかけ</p> <p>⇒これにより地域が活性化され「やすらぎ」のある地域コミュニティが形成されるきっかけづくり。</p>	



## 4.2 2班【地域活動・コミュニティ・行政経営】

### ■ 決定した指標

主な指標	ポイント
<p><b>私の暮らしている地域には、新たなことに挑戦・成長する機会がある</b></p>	<p>2班は「しくみ（みんなの想いを支える、信頼される行政）」がテーマであることから、行政運営や職員に対する信頼度を測る指標が候補に挙げられたが、何事においても住民が主体的に取り組むことができる環境を整えることで、行政への信頼度も向上するという考えから、「新たな事に挑戦・成長する機会」が指標として選ばれた。</p>

### ■ その他の検討された指標

<p>暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う</p>
<p>暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である</p>
<p>暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい</p>
<p>私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある</p>

※その他、「行政サービスのデジタル化が進んでいる」「仕事や日常の場でデジタルサービスを利用しやすい」も挙げられた

■ 施策のイメージ

内容（事業アイデア）	
まちづくり公社の設立 ～住民と行政をつなぐ よろず相談窓口～  住民主体⇔行政が支える	〈前提〉民間の活力、自発性の活用 ・行政だけでできることは限界的→役割 ・行政は支える役割、住民主体
	【住民要望】区以外の団体も要望できる仕組み
	【交通】再任用職員が地域交通の担い手に ※県モデル事業
	【産業】起業創業支援
	【観光】みのぶ観光支援センターの教訓を活かす
	【観光】観光協議会は機能している
	【農業】あけぼの大豆生産者主体
	【農業】農業の中間支援は始まっている→他分野でも
	【子育て】子育て支援が定住につながっていない
	【地域活動】地域活動の支援の場
	【行政運営】行政職員が地域に入っていくことも大事
	【行政運営】副業として、ボランティアとして
【行政運営】やりたくないことにまきこまれてしまう	
ポイント	
<p>・観光支援センターの事例しかり、今までは官民の役割分担がしっかりできていなかった。</p> <p>・明確な役割分担のもと、仕組みが機能し、場所とスタッフがそろえば官民連携の波は広がっていく。</p> <p>・例えば、農業分野では農家と行政を繋ぐ中間窓口が今年走り出したが、それを他分野に広げては？既存の取り組みをベースにして住民主体のまちづくりを構築する。</p> <p>【取り組み→目標達成までの流れ】</p> <p>①町民が挑戦・成長できる仕組みづくり</p> <p>②「行政は町のことを真剣に考えている」想いが広がる</p> <p>③町民も行政も、受け入れられる・活躍できる環境が整うことで居心地が良くなる</p> <p>・行政側（特に若手職員）も、もっと町に入り込んで活動する必要がある。</p>	



### 4.3 3班【産業・農業・観光】

#### ■ 決定した指標

主な指標	ポイント
<b>私の暮らしている地域には、新たなことに挑戦・成長する機会がある</b>	政策の「可能性への挑み」から、新たなことに挑戦・成長する機会があるという指標が最も近いだろうという分科会でもまとめとなったが、他に、挑むためには、適切な収入を得られる安心感が必要だ、女性が働きやすい雰囲気、制度を整える必要があるなどの意見もあった。

#### ■ その他の検討された指標

私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある
私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある
私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い

#### ■ 施策のイメージ

内容（事業アイデア）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな価値への創出</li> <li>・ ネットワークづくり</li> <li>・ 気軽な人材派遣（助け合い）</li> </ul>	色々な職業体験（大人向け）ができる町、大人向けキッズニアモノづくりセミナー、弟子入り制度
	新たな産業（業種）見学ツアーの実施（新しい業種を町で始める）
	仲間づくり（同業者、他種他職）
	色々なオフ会をつくる
	副業の要件緩和
	農援隊
	いろんなボランティア（困りごと解決隊）
ポイント	<p>挑戦する際にどんなものがあったらよいか、よかったかという視点で考え、共有した。町内の様々な職業体験やお店や工房への弟子入り、現在は町にない業種の見学など可能性を広げるサポート</p> <p>仲間がいると心強いということで、人のネットワークづくり 繁忙期などの気軽な助け合いなど</p>



#### 4.4 4班【福祉】

##### ■ 決定した指標

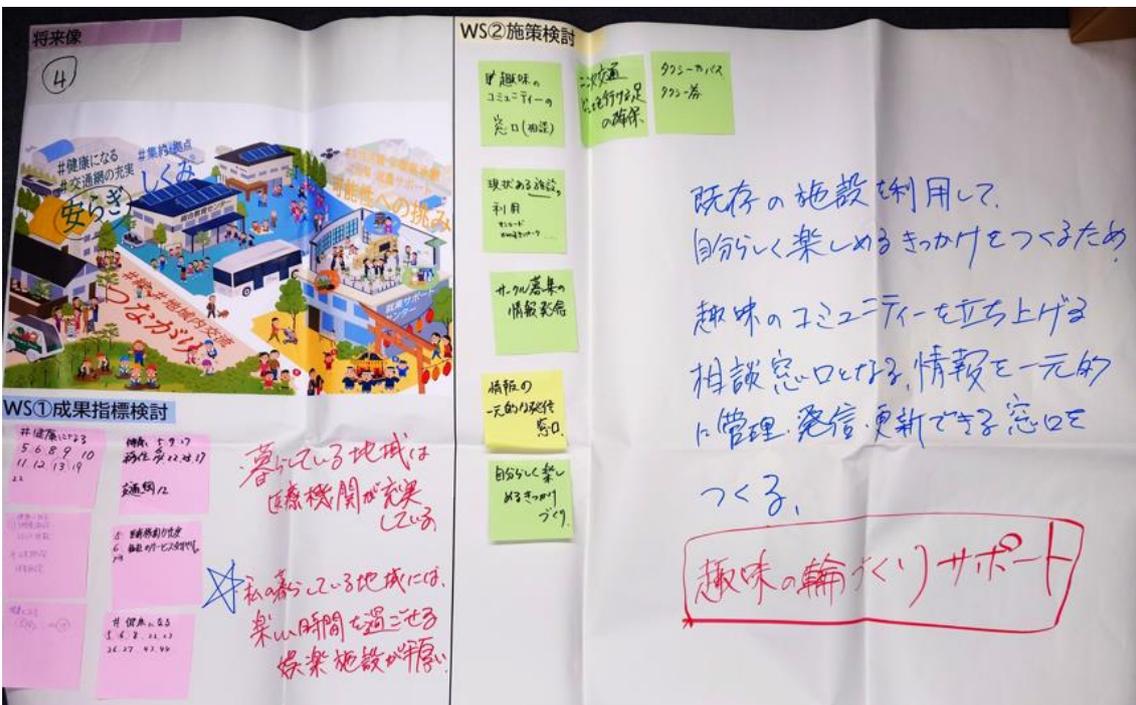
主な指標	ポイント
<b>私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある</b>	「#健康になる」というキーワードから、「医療機関の充実」や「介護・福祉施設サービスが受けやすい」なども出てきていたが、不健康な状態を健康にするというより、不健康にならないように予防するという考えから、楽しい気持ちといったものが活力になり、最終的に健康につながっていくと考えられていた。その中でも娯楽施設があることが楽しさにつながっていくとして選ばれた。

##### ■ その他の検討された指標

暮らしている地域は、医療機関が充実している
私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい
私の暮らしている地域では、飲食を楽しむ場所が充実している
自宅には、心地のいい居場所がある
【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている
私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる
私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる
暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
暮らしている地域では、身近に自然を感じる事ができる
暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
私は、身体的に健康な状態である
私は、精神的に健康な状態である

■ 施策のイメージ

内容（事業アイデア）	
趣味の輪づくりサポート	趣味のコミュニティーの窓口（相談）
	二次交通 どこでも行ける足の確保
	タクシーやバスの利用券
	現状の施設の活用（サンロードかみすきパーク等）
	サークル募集の情報発信
	情報の一元的な発信窓口
自分らしく楽しめるきっかけづくり	
ポイント	
<p>新しく娯楽施設を作るのではなく、既存の施設を利用して、自分らしく楽しめるきっかけをつくるため、趣味のコミュニティを立ち上げる相談窓口となり、情報を一元的に管理・発信・更新できる窓口をつくる。</p> <p>⇒コミュニティ立ち上げ支援窓口の整備、情報の集約、発信</p> <p>⇒住民交流の活性化、地域資源の有効活用</p> <p>⇒誰もが自分らしく輝く豊かな暮らしの実現</p>	



#### 4.5 5班【生活の利便性・暮らしやすさ】

##### ■ 決定した指標

主な指標	ポイント
私の暮らしている地域には、公共機関で好きな時に好きなところへ移動できる	暮らしやすさや安らぎをテーマとする本分科会では、第2回ワークショップで「飲食の場」や「日常の買い物」に関する指標が適しているのではないか、という意見が出された。また、安らぎの観点からは、最終的な理想は「精神的に健康であること」だとの指摘もあったが、これは多様な施策の積み重ねによって実現されるものであり、指標としてはより具体的で測定可能な事柄を設定すべきだ、という方向で意見が一致した。 そこで、町民アンケートにおいて満足度が最も低く、ワークショップでも議論の中心となった「交通」を指標として位置づけることとした。

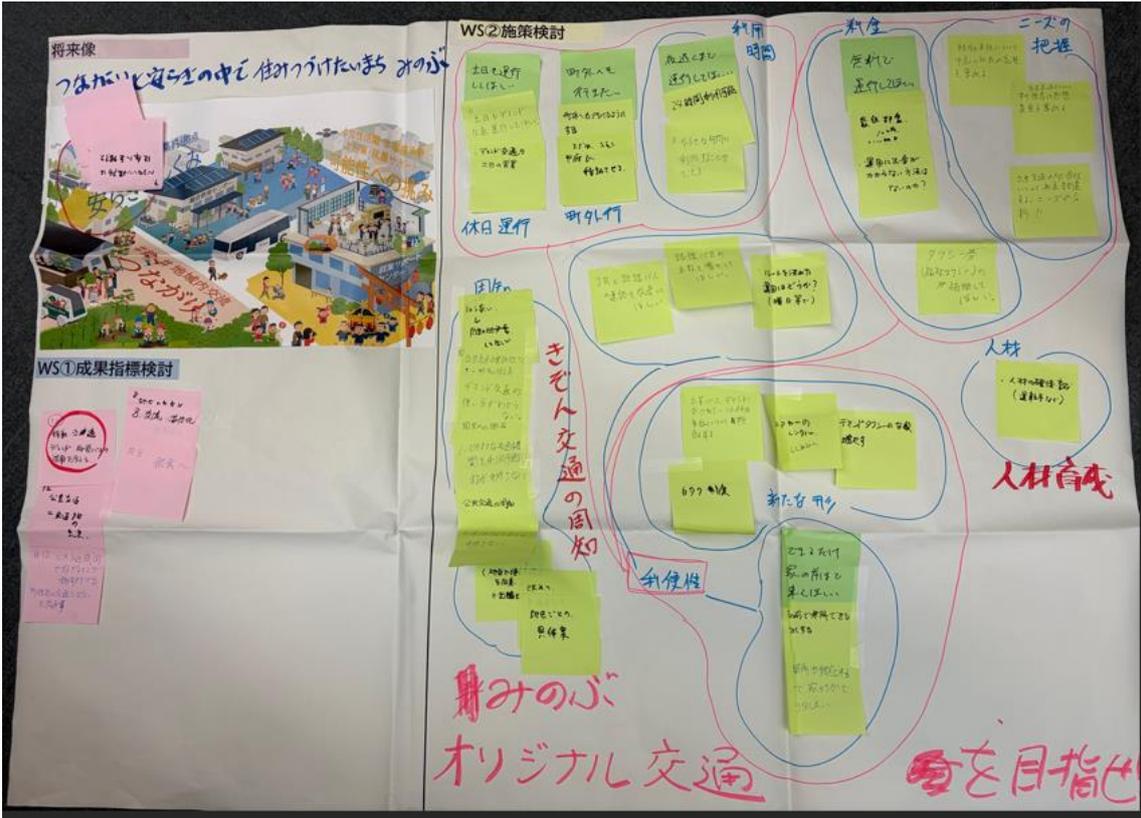
##### ■ その他の検討された指標

私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している
暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない
私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる
私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある
私は、精神的に健康な状態である

##### ■ 施策のイメージ

内容（事業アイデア）	
デマンド交通の土日営業	休日の運行対応
町外へのアクセス	利用距離の検討
夜遅くまでの運行・24時間利用可能な運行	利用時間の検討
交通手段を知らない人が多い	既存交通の周知
デマンド交通の使い方が分からない	

どのような交通機関を利用すればいいのかわからない	
利用方法がわからない	
SNS を活用した周知	
家の前まで来てほしい	新たな交通の形の検討
家の近くで利用したい	
公営バス、デマンド交通、タクシー以外の手段について検討する	
白タク制度の導入	
デマンドタクシーの台数を増やす	
シニアカーのレンタル事業	
運転手などの人材確保・育成	人材確保・育成
無料運行	利用料金の検討
最低料金を 100 円にする事業	
運用にお金がかからない方法の検討	
タクシー券（福祉タクシー）の補助	
実際にだれがどのようなニーズを持っているのか意見を集める	ニーズの把握
利用者の感想や意見を集める	
ポイント	
職業体験を通じた挑戦・交流 イベントの開催による新たな事業展開、子どもの将来の起業につながる ⇒関係人口の増加、交流、利便性の向上 ⇒活き活きとした暮らしの実現につながる	



#### 4.6 6班【教育・子育て】

##### ■ 決定した指標

主な指標	ポイント
<b>私の暮らしている地域には、新たなことに挑戦・成長する機会がある</b>	生活の利便性や子育て、通学しやすさなどの意見があったが、最終的には、新たな事に挑戦・成長できる機会があり、それにつながる教育が充実していること、その成果として買い物や飲食などが充実していくという構造から、新たな事に挑戦・成長する機会が、指標として選ばれた。

##### ■ その他の検討された指標

私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している
日常の買い物に不便がない
私が暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い
私の暮らしている地域では、子どもたちが生き活きと暮らせる
私の暮らしている地域では、通学しやすい場所に学校がある

##### ■ 施策のイメージ

内容（事業アイデア）	
デジタルを活用した新しい文化祭 オンラインによる交流（他校・他県） イベントを開催することによる世代間交流の促進	職業体験、県外や最新のビジネスの体験
	在宅で出来る仕事紹介イベントによるUターン促進
	事業の後継者探しイベント
	デジタルをうまく利用し地域差を解消
	学校間交流文化祭
	チャレンジショップ、空き家を使って新たな事業をスタートする機会をつくる
	Uターン補助金
ポイント	
職業体験を通じた挑戦・交流 イベントの開催による新たな事業展開、子どもの将来の起業につながる ⇒関係人口の増加、交流、利便性の向上 ⇒生き活きとした暮らしの実現につながる	



## 5. 当日の様子

---





